

八千代市における中学校武道の取組

柔道の授業実践を通して

八千代市は人口約19万人の中核都市として千葉県の北西部に位置し、東京のベッドタウンとして宅地開発が行われ、現在も児童生徒数がわずかであるが増加傾向にあります。市内には11校の公立中学校があり、そのうち4校が柔道、7校が剣道の授業を行っています。武道場のある中学校は1校のため、他の学校は体育館で畳マット等を使用して授業を実践しています。また、市内の公立中学校には柔道部がなく、生徒のほとんどが柔道初心者という実態です。今回の実践概要紹介では、柔道の授業における「地域人材を活用した実践」をもとに本市での取組を紹介します。

八千代市教育委員会

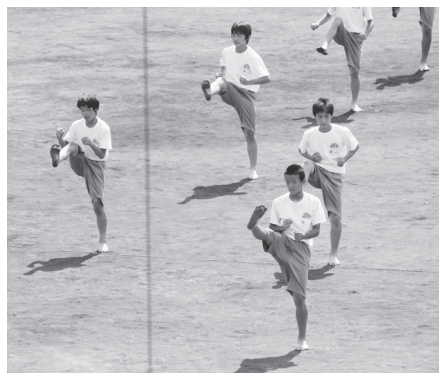


小学生による空手道を取り入れた演技

1 八千代市の体育と武道経験の機会

八千代市では「子どもたちの可能性を引き出す」ために、子どもたちの活躍する様々な教育活動を展開している。毎年9月に市内の

は陸上の種目を中心とした競技を行っている。午前の学校演技では、組体操やダンス等の創意工夫のある学校演技を行っている。その中に、武道を学校演技に取り入れている学校があり、空手の形や少林寺拳法の法形ほうけいを取り入れ、各学校の創意



中学生による少林寺拳法の法形を取り入れた演技

2 武道を指導する教員の育成

工夫により、武道を様々な形で経験する機会を設けている総合体育祭は、本市の教育活動の特徴である。

本市では、平成24年度から中学校保健体育科教員を対象とした武道安全研修会を行っている。中学校学習指導要領完全実施に伴い、柔道の安全性が課題になったこともあり、柔道の安全指導及び、剣道の防具管理を含めた安全指導の研修を行っている。

本年度は文部科学省より刊行された『柔道指導の手引（三訂版）』の作成協力者を講師に迎え、柔道の指導内容や技術指導の要点を研

- ①生徒の怪我防止（安全指導）
- ②学習指導要領の正しい理解と学習内容
- ③生徒の実態に合わせた指導計画及び指導方法
- ④実技研修

県や市の柔道の研修に全員が参加することとなっている。八千代市の研修会では、実技を中心に研修を行い、指導経験が少ない若年層の指導力向上を図ることをねらいとした。これらの研修を通して、指導する保健体育科教員の指導力を向上させるとともに、懸念されている学習中の怪我防止に努めていくため、研修の成果を検証し、引き続き研修を継続していく必要があると考えている。



武道を指導する教員は、柔道の指導内容や技術指導の要点を研修した

3 外部人材を活用した柔道の授業

本市では、文部科学省より委託を受け、千葉県が主催している武道等指導推進事業より派遣される外部指導者を中学校の柔道の授業に派遣している。外部指導者の選定にあたっては、次のような要件で選定した。

- (1) 武道経験を生かした指導ができる

ること

- (2) 生徒の実態に応じ、安全を考慮し、段階的に指導ができること
- (3) 青少年に対する武道の指導経験があること

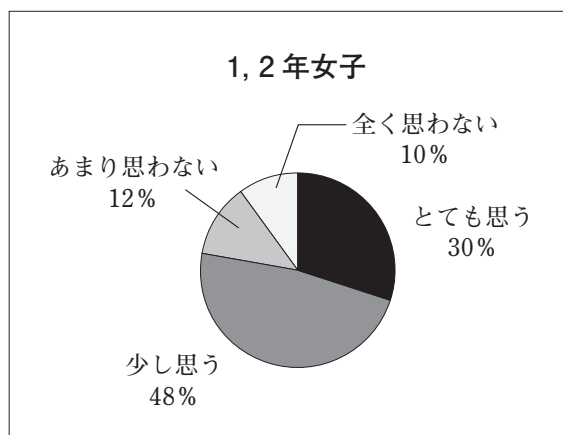
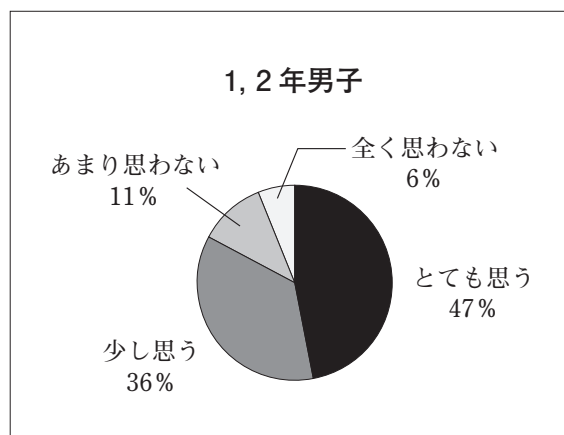
本市では、柔道の有段者であり、生徒への指導経験のある元中



【固め技の指導】
指導のポイントを明確にするため、指導
する内容を事前に打ち合わせをした。



【固め技の授業風景】
一斉指導とペアで学習する場を設定することで、生徒は意欲的に活動することができた。
また、外部講師と教員で見る場所を分担し、効率よく指導できた。



【アンケート①：今後も柔道の学習をやりたいか】
乱暴だと思っていたが、礼儀正しいスポーツ」「実際にやってみると楽しい」等、今後も意欲を持ってやってみようという感想が多い。好意的でない意見には、「怖い」「痛い」等が多く、授業で場の工夫等をしていく必要があると感じた。

実践報告

学校名

八千代市立阿蘇中学校(千葉県)

全校生徒数

253名
(男子130名 女子123名)

種目等

武道(柔道)

I. テーマ 外部講師と連携した 学習指導のあり方

II. 研究概要

- 1 研究のねらい
(1)生徒が興味・関心を持ち安全に
基礎的・基本的な技能の習得が
できる授業づくり。
(2)武道行動様式(礼法)の習得を
通して、相手を敬う心、思いや
りや感謝の気持ちの育成。

2 研究の取組体制

- (1)武道指導推進委員会
①構成メンバーは、校長、外部講
師、保健体育科主任及び教員、
市教委保健体育指導主事、県教
育事務所保健体育指導主事。
②武道推進委員会において、学習
指導要領における武道の位置づ
け、柔道の授業における安全な
指導と外部指導者の役割及び活
用方法の確認、安全に配慮した
技の習得について県教育事務所
指導主事が講習会を実施した。
③外部講師と保健体育科教員の連
携
①外部講師が毎時間、授業開始前
に保健体育科教員に実技研修を
実施した。
②外部講師と保健体育科教員が、
授業展開、指導上の留意点につ
いて生徒の習得状況を確認しな
がら、必要に応じて打ち合わせ
を行った。
3 研究の概要
(1)柔道の指導の工夫

①外部講師の実技研修による、保 健体育科教員の指導技術の向上 を図る。

②生徒の実態や技の習得状況に 応じた指導方法の工夫。

③礼法指導を通して、相手を敬う態 度、思いやりや感謝の気持ちの 育成を図る。

III. 生徒への安全指導

①「頭部を打たない、打たせない」 ための受け身と引き手の習得を 重視。生徒の実態に配慮した組 み合わせを行い、練習相手を教 員が意図的に組ませる。

②手足の爪、ヘアピン等の安全・ 衛生を確保するための学習のき まりの徹底。

③楽しさを味わわせながら、安全 に技を習得させるための段階指 導と技の精選。

IV. 成果と課題

①外部指導者の専門性を生かし、 「伝統的な考え方」や基本的な 技能を生徒に指導できるように

なった。

②専門的な指導・助言を受けるこ とで、基本動作や受身等の技能 の習得において学習効果が高ま った。

③授業をとおして身に付けた礼法 を、学校生活の中に生かしてい くことが課題。

V. 研究内容



【礼法指導】
作法の意味を教え、すぐに実践させる。

筑波大学大学院准教授 山口 香 著

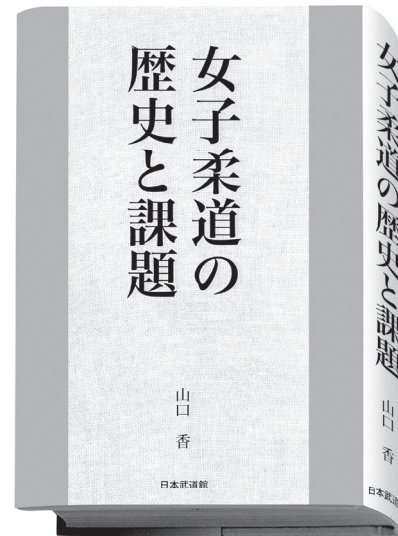
好評発売中！

女子柔道の歴史と課題

世界トップレベルの活躍をする日本女子柔道。これまでどのような道を辿ってきたのか、草創期から競技化そして現在までの歴史を、元メダリストである筆者の体験を踏まえて詳説する。

後半は女性の視点から、女子が抱える心身の問題、女子を指導する際の注意点、将来のキャリア形成などについて論じ、さらなる発展の道を探る。

柔道関係者・武道指導者必読の一冊。



四六判・上製・416頁・2,520円(税込)

目次

◎第1章 女子柔道の夜明け

女子柔道の始まり
日本女性が受け継ぐ「柔の道」
広がりを見せ、試合へと向かう女子柔道
試合への道を切り開いてくれた世界の先駆者の女性たち

◎第2章 競技化への軌跡

世界への扉が開かれた第1回世界女子柔道選手権大会
世界を目指した苦心の戦い
福岡国際女子柔道選手権大会の歴史と意義
女子柔道の五輪参加

◎第3章 世界のトップへ

田村亮子の出現 —新たな時代の幕開け—
大会の新設と整う強化ライン
実業団の取り組み —三井住友海上女子柔道部と柳澤久監督—
アテネ五輪での快挙 —吉村和郎が伝えた勝利への執念—
世界選手権を振り返る

◎第4章 柔道先進国と後進国 それぞれの事情

フランスの女子柔道事情
世界の女子柔道 —イスラム圏—

◎第5章 女子選手特有の問題

柔道指導における男女の性差
先輩選手から学ぶ問題解決の糸口
セクハラを中心とした倫理規定の必要性

◎第6章 引退後のキャリア

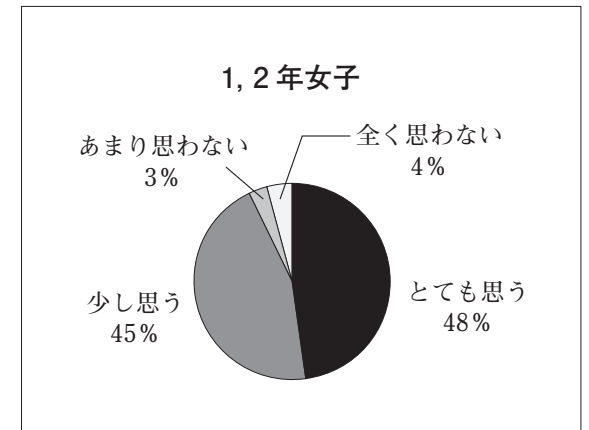
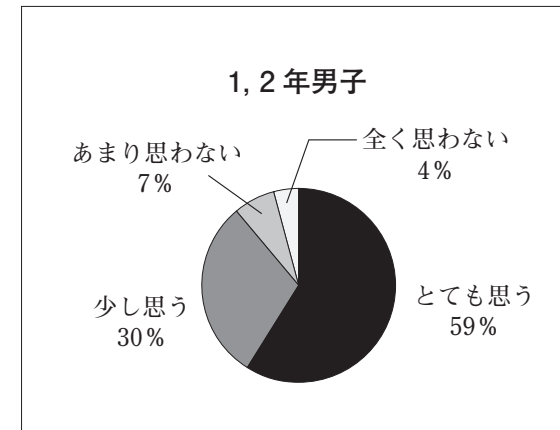
女子柔道選手引退後のキャリア —指導者—
日本女子柔道倶楽部という試み
女子柔道選手引退後のキャリア —海外—

◎第7章 女子柔道の未来を探る

メダリストたちからのメッセージ
歴代全日本女子監督に聞く

◎資料編

データで見る女子柔道競技の変遷
福田敬子(講道館女子九段)・梅津勝子
(講道館女子八段)講演
年表 日本女子柔道界のあゆみ



【アンケート②：安全に基本的・基礎的な技能を身につけることは大切ですか】
男女ともに9割近い生徒が、「大切」と感じている。生徒の中にも、安全のための受け身や基本的な技能の習得についての大切さが伝わった。研究目標について、概ね達成できた。

4

おわりに

武道には、礼節を重んじること、謙虚であること、社会に貢献すること等、我が国固有の文化である武道ならではの教育効果が期待されます。

八千代市では、子どもたちの可能性を引き出すために、今後も教員の指導力向上や地域人材の協力

体制の構築等を進めてまいりたいと考え、子どもたちの教育効果を高めるために、様々な手立てを模索し、他市の実践から学び、武道の指導を推進してまいりたいと考えております。

○実践校での成果と課題

- ・専門性のある外部指導者と保健体育科教員が生徒の実態に合った指導を行うことにより、興味関心を高めることができた。
- ・柔道を安全に行い、特性を味わわせる授業計画で実践したため、生徒自身が安全に運動することの意味を理解できた。
- ・外部指導者と打ち合わせを行う

時間の確保等、連携方法を改善していく必要がある。

主な実践内容を紹介したが、外部指導者の専門性と保健体育科教員の指導力と、事前の打ち合わせがあつてこそ成功例であり、今後連携の方法や授業計画、指導内容について検討をし、よりよい実践へ結び付けていきたい。



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158